現地報告⑳　サインのない地雷原

１１月、大阪のフォトグラファーでＣＭＣ大阪事務局のメンバーでもある明博史さんの取材に同行し、不発弾により左手首から先を失ったピッチ・ブンヘイン君に会いにバッタンバン州ラタナモンドール郡へ向かった。ブンヘイン君はラジオの広報ポスターのモデルになってくれた少年である。彼については現地報告ｖｏｌ６で詳細を報告させていただいた。

ピッチ・ブンヘイン君（13才）
　写真左：ブンヘイン君の通う学校にて
　写真右：午後、牛の世話に出かける様子

教室、教師が足りていないため、カンボジアの小学校は基本的に２部制であり、子どもたちは午前か午後のどちらか決められた時間に学校に通う。では残りの半日は遊んでいるのかというとそうではなく、家の手伝いで皆忙しいのだ。

ブンヘイン君は午前中に授業を受け、家に帰って昼食をとったあと、午後は夕方まで家の手伝いで牛の世話に出かけるのが日課である。

今回、我々は午前中に彼の通う学校を訪れて授業風景を見学した後、午後は牛の世話に一緒についていくことにした。

彼の家を出発し、人気のない林のほうへ３０分ほど歩いたところにいつもの放牧地があり、そこで牛を放した。ちょうど同じ頃に、牛の世話をしている他の子どもたちもたくさんの牛とともにやってきた。どうやら毎日、牛飼仲間の友達とこうしてここで合流して一緒に遊んでいるらしい。もちろん牛を見つつではあるが。

子どもたちが遊ぶのを我々はのんびりと見ていたのだが、そのうち子どもたちが「こっちおいでよ！」と誘うので何だろうと思いながらついていった。そして指差す子どもたち。

「これ、不発弾だよ」と。

唖然とした。
確かにそれは不発弾であった。

子どもたちはその後さらに２つの不発弾の場所を案内してくれた。

子どもたちが発見した不発弾。周りに地雷原を示すドクロサインはない。

聞くと、ブンヘイン君が事故に遭ったのもこの辺りで遊んでいたときだという。

今回の子どもたちはもちろんブンヘイン君の事故のことを知っており、不発弾が爆発物で危険なものであることをすでに知っていた。しかし例えそのように不発弾の危険性を知っていて、意図的にそれに触れはしなくても、走りまわっている最中に偶然、不発弾を蹴飛ばしてしまって爆発、というようなことも考えられなくはない。本当に危険である。そして不発弾について何も知らない子どもたちだったらどうだろう。興味本位で手にとって遊んでしまうこともあるのではないか。事実、子どもの地雷・不発弾事故の一番の原因はまさにそれなのだ。

地雷原であることを示すドクロマーク

残念なことに、この辺りには地雷原であることを示す赤いドクロ標識がなかった。標識があれば子どもたちも入ることはないであろうに。

この場所が特殊なのではなく、カンボジアにはこのような場所が多くあると考えられる。人の住む村から離れた田や林は地雷の撤去作業が後回しにされる。そしてそこが地雷原であるかの確認作業がされていないため、標識さえ立てられていない。これは効率面、資金面から考えて仕方のないことだ。しかし、そこには今回のように実際には地雷や不発弾がごろごろ埋まっている可能性がある。

我々はラジオ番組「VOICE OF HEART」の電話コーナーで「地雷事故は赤いドクロのサインのあるところとないところ、どちらが多いでしょう？」という質問を聴取者に尋ねてきたが、ほとんどの方が「サインのあるところ」と答えた。これは間違いである。昨年の地雷事故においても、実に８０％はサインのない場所で起こっているのである。サインのある場所だけが地雷原ではない。サインのない場所も完全に安全な場所とは言えない、それをしっかりと認識できれば事故はもっと減るのかもしれない。